



スポーツバイクニュース

～中級レベルのメカニック向け実践的作業事例～

平成30(2018)年3月30日 Vol. 21

隔月発行

今泉紀夫のMTB診断術—BOOST製品規格

このMTB診断術は、自転車販売店でのMTBの修理・調整作業を紹介しています。ワークショップモンキーの今泉紀夫さんが、自身の経験に基づいた実際の事例から作成したモデルケースです。自転車販売店の中級レベルのメカニックを対象にしているため、基本的な名称、説明等は省略しています。作業は必ずメーカーマニュアルに従って行ってください。

お客様の相談内容

フロントサスペンションフォークでリアリジッド、26インチホイールのMTBに乗っているお客様がご来店されました。MTBの記事などでよく紹介されている“BOOST(ブースト)”にできないか、といったご相談でした。

持ち込まれたMTBの状況

お客様は10年程前にMTBをご購入されたとのことでした。現在MTBは街乗り用です。このMTBのO.L.D.(オーバーロックナット寸法/ハブのエンド幅)はフロントハブ100mm、リアハブ135mmでした。まさに、当時流行ったMTBそのものでした。フロントサスペンションフォークからフォークオイルが少し漏れ滲んだ状態でしたが、クイックレリーズやVブレーキの動作は正常でした。フロントとリアホイールは走行には支障がない程度ですが、少し振れていて細かなキズが無数にありました。

BOOST製品規格の誕生

BOOST製品規格の誕生に至るまでの大きな流れをご説明します。

MTBのホイールは当初の26インチから29インチへと大きくなり、最近では27.5インチが主流になりました。

同時期にタイヤ幅が極太のファットタイヤが流行った後、より実用的なセミファットタイヤに流行が移ってきました。その後、タイヤ幅が2.8～3.0インチのプラスタイヤへと落ち着き、MTBに広く普及したことからBOOST製品規格が生まれた、と言われています。その他の特徴として、BOOST製品規格は油圧式ディスクブレーキ対応でフロントとリアともにスルーアクスルシャフト仕様です。フロントハブの寸法は15×110mm、リアハブは12×148mmです。なお、リアハブのエンド幅142mm、150mmはBOOST製品規格ではありません。そのうち、150mmはフリーライド・ダウンヒル用でした。



リアスルーアクスルシャフト/リアハブ12×148mm対応

お客様との相談

このように、BOOST製品規格のうちハブのエンド幅は、フロントハブが100mmから110mmへと10mm、リアハブが135mmから148mmへと13mm 広がっているため、現在のMTBは、BOOST製品規格には対応できないことをお伝えしなければなりません。次に、フロントサスペンションフォークからフォークオイルが漏れ滲んでいることを伝えます。すでに部品の在庫がないことが多いので修理できるかどうか分からないがメーカーに問い合わせてみます、という説明になってしまいます。代替品があれば新品に交換するのですが、現在では主に、フロントサスペンションフォークのステアリングコラムの形状や径などが異なることから、交換が困難であることを丁寧に説明していきます。街乗り用のリジッドのフロントフォークへの交換も考えられますが、お客様の乗車ポジションが変わってしまうのでお勧めはできません。BOOST製品規格が広く普及した一方で、26インチホイールに対応する部品の選択肢は限られてしまいます。

今後の方針

ご使用中のMTBをBOOST製品規格対応にすることは困難、という状況をお客様にご理解いただいた後、フロントサスペンションのフォークオイルの漏れには対応しなければなりません。製造終了から時間が経っているため、当然のことながらメーカーに部品の在庫がないことが多く、お客様には修理不可能とのご返事になってしまいます。

最終的には、BOOST製品規格に対応したMTBへの買い替えをお勧めすることになるかもしれません。

最後に

BOOST製品規格の特徴は、従来の26インチホイールのMTBと比較すると、まずタイヤが大きくて太いため、乗り心地がソフトであり、タイヤの用途もオールマイティーに近いイメージです。次に、フロントギアがシングル、リアギアがワイドレシオ、例えば、11×46Tで11速という仕様も可能です。デザインはとても洗練され時代の息吹を感じさせます。

ところで、スポーツE-BIKEなど様々な呼ばれ方をする電動アシスト付きスポーツバイクが最近注目されています。その中でも、電動アシスト付きスポーツユースのMTBは山道を登るときなどに便利であるため、新製品が続々と発表されている状況です。

このように、MTBはさらなる変化を求めて日々進化を続けています。新しい製品規格が誕生することで、部品の種類が増え互換性の問題は起こりますが、変化が起こるたびに刺激を受けます。そして、勉強を継続しなければならなくなります。MTBは新たな時代の幕を開け、さらに先に進んで行こうとしています。



プラスタイヤ/タイヤ幅3.0インチ

今号で「スポーツバイクニュース」は最終号となります。

現在、タイトル、内容、発行回数等を一新し、さらに内容を充実させ、新たなニュースを発行する計画を進めています。これまで誠にありがとうございました。



<監修>

ワークショップモンキー 今泉紀夫(いまいずみ のりお)

URL: <http://www.monkey-magic.com/> 住所: 東京都豊島区高田 3-13-6-102

MTBメンテナンス解説書の監修を手掛け、知識と技能は国内トップクラスにある。

オリジナルフレームの開発でも有名。SBM(スポーツバイクメカニック)認定講師

<発行> 一般財団法人自転車産業振興協会 〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4階

電話: 03-6409-6922 FAX: 03-6409-6868

<http://www.bpi.or.jp>